

令和6年度 福井県立ろう学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
<p>1 教育課程 学習支援 幼稚園部</p>	<p>表現遊びを通して、子どもたちが主体的に活動に取り組むための環境設定や支援を工夫する。</p> <p>目標：定期的に授業検討会を実施し、授業改善に取り組む。 80%以上</p>	<p>【取組指標100%、成果指標100%、満足度指標100%…達成】</p> <p>子どもたちが主体的に表現遊びに参加するために「分かりやすい物語を扱う」「物語の内容理解を促す」「子どもたち同士の伝え合いを促す」等様々な意見が出された。また、「お互いの顔が見える位置に座るようにする」「友達の発言もきちんと見るよう促す」等、コミュニケーション場面での基本的な姿勢の大切さについても改めて確認された。</p> <p>保護者に対しては、授業の様子を玄関モニターに映して子どもたちの様子を伝えたり、授業参観の機会を作ったりして理解を求めた。</p>	<p>対象とする授業について教職員全員が関わり、意見交換しながら、授業づくりができたことは大変有意義であった。次年度以降も、全員が関わる体制で授業づくりを行い、授業改善に努めていきたい。保護者には、授業を直接見る機会を作ると共に、玄関のモニター等を活用し、日々の子どもの姿を伝えていくことも有効であったため、今後も継続して取り組んでいきたい。</p>
<p>2 教育課程 学習支援 生徒支援 小学部</p>	<p>児童が主体的に活動に参加できるよう、活動内容や個に応じた支援を工夫する。</p> <p>目標：個に応じたコミュニケーションの方法や学習活動について検討し、実践する。 80%以上</p>	<p>【取組指標84.6%、成果指標92.3%、満足度指標100%…達成】</p> <p>昨年度の取組で、子ども達が主体的になるためには、「体験的な学習」「見通しやイメージがもてる授業」「聞きたい・伝えたいを引き出す題材」という3つの要素が重要であることや教師がモデルとなり介入することの大切さに気付くことができ、今年度は、これらを踏まえて実践を重ねた。児童から「友達と一緒に楽しい」「いろんな意見が言えた」「友達や先生と話すことが楽しい」という声が聞かれた。保護者からも高い評価(満足度100%)を得られた。</p>	<p>教師の支援の下では主体的に活動する姿が見られたが、教師の介入が少ない場面での児童同士のコミュニケーションや主体的な活動には課題が多い。今後は、教師の直接的な介入を徐々に減らしていきながら、児童が課題に直面した際に自ら提示された情報を得たり、周りの友達と相談したりして考えていく力が必要だと考える。そのため、教師の授業や児童に対するアセスメントを大切にしながら、児童が自ら考えたり必要な情報を得ようとするための支援について授業づくりの中で考えていきたい。</p>
<p>3 教育課程 学習支援 生徒支援 進路支援 中高等部</p>	<p>生徒が相手の状況に応じて、互いの考えや気持ちを適切に伝え合えるように支援する。</p> <p>目標：生徒が適切にコミュニケーションできるように支援する。 80%以上</p>	<p>【取組指標93.8%、成果指標83.3%、満足度指標100%…達成】</p> <p>「コミュニケーションのチェックリスト」を用いて明らかになった個々の課題を解決するため、生徒が主体的・意欲的に話し合いができる活動に絞って支援方法を検討した。生徒と相談しながら「聞く・話す」意欲・態度に関する個別目標を立て、目標を意識させながら、生徒同士が適切にコミュニケーションを図れるように支援した。</p> <p>さらに、2年間の取組を通して見られた変容と有効だった支援、残された課題等を協議し、共通理解を図った。保護者に対しては、懇談会等を通して取組の状況や生徒の様子を伝え、理解を求めた。保護者にもコミュニケーション能力向上に向けた取組を理解していただくことができ、高い評価(満足度100%)を得た。</p> <p>一方、「授業でSNS講座を実施してほしい」という回答があった。SNSについては、全体でも個別でも授業や集会で指導をしてきているが、トラブルは生じている。今後もメディアリテラシーやSNSの利用の仕方やリスクを十分に指導していきたい。</p>	<p>伝え合う実践で得た知見を生かしつつ、「生徒が自ら問いや課題を見つけ、主体的に解決する力」を身に付けられる取組に注力したい。さらに、生徒数が増え、実態も多様になるため、集団の中での自分の役割を自覚し、互いに協力し合って解決していく姿勢・態度を育むことができると考える。具体的には、授業を通して一人一人が考えたり、生徒同士が協力し合ったりしながら目的や問いを立て、情報を収集・分析し、解決する姿勢・態度が身に付くように支援していきたい。</p>
<p>4 生活支援 寄宿舎</p>	<p>寄宿舎生が自分たちの生活について皆で考えた話し合いの中で、各々が自己決定する力が身に付くよう、支援方法を工夫する。</p> <p>目標：寄宿舎生が自己決定する力が身に付くように支援する。 80%以上</p>	<p>【取組指標100%、成果指標80.0%、満足度指標100%…達成】</p> <p>意見を言えない舎生が意見を言いやすくするために、指導員が①個別で活動前に具体的な内容説明を行い、舎生の理解度を高めたこと、②少人数の活動日を設定して支援したこと、③意見を言える舎生は、発言したときに、発言の理由も説明するように促したこと、④自分の意見を主張するだけでなく、周りの意見にも目を向け、みんなが納得できるような案を考えさせたこと等の支援をしたことが功を成したと思われる。また、舎生は自分や相手の意見を意識しながら話し合い活動に参加できたようだ。話し合いが進むにつれ、自分から意見を言えない舎生が、聞き取れなかった話について確認したり、自分から意見を言ったりする姿が見られるようになった。保護者には、「おしゃべり会」や係活動などの様子を載せたお知らせや各担当からのコメント等で舎生の活動の様子が分かるように伝えたことで高評価を得られた。</p>	<p>話し合いは活発にはなったが、自分の意見を言うことに戸惑いを感じている舎生もまだいる。話し合いが苦手な舎生が参加しやすくなるように、意見を出しやすいつ話し合いの形態を工夫したり、活動時間の調整を行ったりしながら支援したい。また、日々の生活の中でも、様々なことを考えたり体験したりできる場を提供していきたい。</p>

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
5 センター的機能 教育支援	各機関と連携し、難聴児に適切な支援や教育相談活動を行う。 目標：各機関と連携・協力し、支援する。 80%以上	【取組指標90.9%、成果指標100%、満足度指標91.7%…達成】 通級、教育相談に加え、難聴児在籍園・校への教職員研修、関係機関との連絡会・研修会を開催し、また、養護教諭・保健主事への研修も実施したところ、難聴児の困り感や配慮について理解してもらえ、環境の整備や伝え方の工夫が見られるようになった。近年、地域の学校へ就学する難聴児が多く、通級や教育相談の需要が高まっており、支援体制の充実を図る必要性を再認識した。通級児童全員が発音の学習やことばの学習が役に立ったと感じており、主体的に課題に取り組むことができた。今後も在籍校と連携して児童に合った内容を実施していきたい。 また、保護者の高い評価(満足度91.7%)は連絡票や懇談等を通じた丁寧な関わりと情報交換の成果と考えるので、引き続き行いたい。	難聴児の切れ目ない支援における県の中核機能としての本校の役割は重要である。来年度も、新生児スクリーニング検査後に保護者が医療・療育機関へスムーズにつながるように、関係機関への啓発も行い、難聴児への理解を広めると共に、難聴児の早期発見、継続的な療育、教育的配慮や支援の実現に努めたい。
6 教職員の専門性及び授業力の向上 図書研究	①所属学部外の授業を積極的に参観する。また専門性チェックリストを活用しながら授業参観し、感想を伝えたり意見交換を行ったりする。 目標：授業参観を年に4本(うち他学部を2本)、寄宿舎指導員は2本以上行い、感想等を伝える。 80%以上 ②ICT機器を効果的に活用し、自分の授業づくりにいかす。また、オンライン研修を積極的に活用する。 目標：子どもの個々の実態に合わせてICT機器を活用した授業や活動を行う。オンライン研修に1回以上参加する。 80%以上 ③授業や学校行事において、手話の他にもUDトークやパワーポイントなど、多様な視覚情報を提示する。 目標：個々の実態に応じた手段を用い、情報保障を行う。 80%以上	【取組指標83.0%…達成】 他学部を参観した教師が昨年よりも増え、本校の縦のつながりを考える機会となった。参観後の感想を事前に把握し、効率よく授業研究会を運営した学部もあった。専門性チェックリスト活用推進については使用方法等で課題が残った。 【取組指標②-1 80.9%、取組指標②-2 87.2%…達成】 プロジェクターやAppleTVなどの機器を使っての授業が定着しつつあると思われる。またバーチャル掲示板アプリ「Padlet」を授業の場面に取り入れて展開する様子が見られ、子どもの意見を効率的に集約し、視覚的に比較しやすい環境を整える工夫に繋げることができた。交流においてもオンラインで活発に行われた。オンラインでの研修は、自分の都合に合わせて取り入れている様子が伺えた。 【取組指標95.7%、成果指標91.5%、満足度指標93.1%…達成】 教師の話していることは、おおむね理解できるが、子ども同士の伝え合い(特に休み時間)に困り感を感じている様子が顕著に表れた。今年は行事が終わるたびに児童生徒にアンケートを行い、情報保障についての意見を挙げてもらい、問題点はその都度改善するようにした。アンケートを取ることによって、声を上げて改善してもらおうという子どもの意識が育つとよい。今後も子どもの声を聞きながら改善に努めたい。	授業公開は資質向上に向けて継続する。専門性チェックリストについては、研修や研究会で取り上げるなど活用への工夫が必要である。他学部の授業参観や研究会への参加は、活発に行えるよう工夫して学部間の交流を図りたい。 ICT機器活用については、常にアンテナを高くし、事例や専門機関のアドバイス等を集約しながら、本校で取り入れていけるように研修や共有体制について考えていく。 行事時の情報保障は、アンケートを続けて改善に努める。子ども同士の伝え合いについては、自立活動の時間に指導していく必要がある。セルフアドボカシーの観点から、子どもたちには、自分の状況をきちんと発信する力を身に付けていけるよう支援していく。
7 人権教育の推進 学校全体	人権研修や幼児児童生徒に関する情報共有を通して、いじめ防止を含めた教員の人権意識の向上を図る。自己理解や他者意識を促す指導などを通して、児童生徒の障がい認識を育む。	教職員対象に研修動画を視聴した。部落差別について教師自身が関心をもたないことで児童生徒に教える機会が与えられないことが危惧されるとの見解を得た。児童生徒に対しては自立活動や交流学習の機会に、自己理解や他者理解を促したり、SNSのルールについて考えさせたり、情報保障について自分のニーズを発信させたりと機会を捉えて取り組むことができた。情報保障については、子どもたちの人権を守るために必要なものだという認識を全教職員が共通理解する必要がある。 今年度、いじめに関する相談は0名であるが、引き続き個々の状況を把握しながら丁寧に対応していく。	教職員の人権意識については、研修等を通して向上を図っていく。幼児児童生徒に対しては、引き続きいじめ等を含めた気掛かりな状況把握に努め、教育活動全体を通じて、自己肯定感を育み、互いに尊重しながら成長できるように指導・支援に努める。

令和6年度福井県立ろう学校 学校関係者評価書

(問)

- ・スクールプランに関する学校の取組及び学校評価の目標に対する成果や課題の分析は適切か、どうか。
- ・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策は適切か、どうか。
- ・その他(学校運営に関すること全般、御意見、御感想、アドバイスなど)

(意見を聞いた方)

福井県ろうあ協会会長、福井県ろうあ協会理事、本校PTA会長 計3名

(意見欄)

1 教育課程・学習支援【幼稚部】

- ・成果や課題の分析、改善策・向上策について適切と感じます。
- ・各ご家庭との相互理解ができていると感じました。
- ・取組指標、成果指標、満足度指標はほとんど100%達成できており、中でも表現遊びというのが物語の内容理解を得てできてよかったと思います。

2 教育課程・学習支援・生徒支援【小学部】

- ・成果や課題の分析、改善策・向上策について適切と感じます。
- ・中・高等部で要望のあった、SNS講座に関して、小学部(高学年)からの実施があっても良いのではないかと思います。小学部→中学部→高等部と、利用マナー理解やリスク・トラブルに関しては長期の指導が望まれるのではないのでしょうか。
- ・児童同士のコミュニケーションの中で伝えたいを引き出すことが大切だと思っています。

3 教育課程・学習支援・生徒支援・進路支援【中・高等部】

- ・成果や課題の分析、改善策・向上策について適切と感じます。

4 生活支援【寄宿舎】について

- ・成果や課題の分析、改善策・向上策について適切と感じます。
- ・共同生活では、きちんと常識など学んでできてよかったと思っています。

5 センターの機能【教育支援部】

- ・成果や課題の分析、改善策・向上策について適切と感じます。
- ・公的な聴覚支援等の情報や、卒業生の話や経験など参考程度でも聞くことができ、保護者が卒業後のイメージを子どもが幼少期のころから持つことができれば、より余裕のある子育てに活かせるのではないかと思います。

6 教職員の専門性及び授業力の向上【図書研究部】

- ・成果や課題の分析、改善策・向上策について適切と感じます。
- ・伝達手段については、子どもたちの理解度も場所や場面によってさまざまです。これからも子どもたちの意見をもとに、より良い教育環境になることを望みます。情報保障については、特に共感し重要であると考えています。支援されることに甘えるのではなく、社会の中での相互理解を深めてゆく方法を身につけて欲しいと強く思います。

7 人権教育の推進【学校全体】

- ・小学部でデフバスケットボールの選手との交流を実施していましたが、今年、東京で開催されるデフリンピックの普及啓発活動をすることが教育活動の一つになります。福井県ろうあ協会はスポカル2024・耳の日フェスティバル2025で県民対象にデフリンピックに関する啓発をしています。ろう学校でもデフアスリートを招致して講演・スポーツ交流をし、ろう者のロールモデルと触れ合うことで生徒の視野が広がり夢がもてると思います。

(学校関係者評価を踏まえた今後について)

- ・今年度の取組については、保護者や学校関係者からは概ね良いとの評価を得た。今後は、各学部等の課題の改善策や学校関係者評価等を踏まえ、次年度の計画作成に生かしたい。
- ・SNSについて、小学部高学年から定期的、継続的に指導をしている。警察の啓発用パンフレットを使用するなど、いろいろな事例を挙げて今後も指導を継続する。児童生徒だけでなく、保護者にもPTA学習会の中でSNS利用についてe-ネット安心・安全講座を実施していく。安全性やデジタルリテラシーの向上、トラブルの予防・早期発見に繋げていきたい。
- ・今年はデフリンピックが開催年であることから、デフスポーツへの取組や成人ろう者との学び合いなど今後も継続したい。

